

ケーブルテレビのコミュニティチャンネルの最近の状況

一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス（ACCS）理事長 太田 秀也

1. コミュニティチャンネルについて

ケーブルテレビ（Cable television）は、ケーブルを用いて行う有線放送で、1955年に地上波テレビ放送の難視聴地域の解消を目的として共同受信実験を行ったのがはじまりとされているが、その後、都市受信障害の改善に取り組み、今では、様々な放送サービスや、インターネット・電話等の通信サービスなど、コンテンツ制作も含め、多様なサービスの提供を地域密着事業として行っている。放送サービスには、地上波テレビやBS・CSテレビ放送の再放送、多チャンネルCS放送に加え、コミュニティチャンネル（自主放送）がある。このコミュニティチャンネル（コミチャン）は、各ケーブルテレビ局が自主制作した地域情報の番組等を放送しているチャンネルである。

コミュニティチャンネルでは、地域の自然・文化・名所・活動・ニュース・イベント等の情報や、地域の自治体の広報情報などが放送され、地域メディアとして、地方創生に寄与することも期待される。日本ケーブルテレビ連盟（JCTA）の「2030ケーブルビジョン」においても「コミチャンをキーコンテンツとして再認識」する重要性が指摘されている。

他方、動画配信等多様なサービスが供給される中で、若者のテレビ離れ等により、ケーブルテレビ事業も厳しい状況におかれており、コミュニティチャンネルにおいてケーブルテレビ局が自主制作した地域情報の番組が必ずしも多くない状況（同じ番組が再放送されたり、自主制作番組でない買い物番組を放送したりしている等）も見られる。加えて、地域メディアとしての機能が形骸化しているという指摘もある（川島2008）。

（備考1）ケーブルテレビ局の自主放送は、1963年に岐阜県郡上八幡テレビ共同視聴施設組合により町民芸能大会が中継されたのが初めてとされ、その後、下田有線テレビ協会、新紀テレビなど各地で行われたが、自主放送の内容は、地元ニュース、自治体公報、教育番組、学校・アマチュア等の制作番組、娯楽・教養番組、地元伝承記録番組、市町村議会中継、生活情報等であり、今日のコミュニティ放送と内容の基本は変わっておらず、ケーブルテレビは地域密着型のメディアであるといわれる由縁となっているとされる（なお、当時、

新聞では電波免許によるテレビ放送と対比して、「ピープル放送」と名づけられた）（日本ケーブルテレビ連盟2005）。

また、平塚1993によると、郡上八幡テレビによる自主放送開始の理由は、再放送番組が地域の人々に疎遠な内容のものが多く、「地域住民の生活と密接に結びつき、地域の産業の振興や文化の向上に役立ち、更に地域の社会教育活動を進めていく上で有効なもの」を放送する地域テレビを始めることであったとされており、放送はVTRがなかったため全て生放送で行われ、「テレビ婦人学級」（スタジオと町内の会場を電話で結ぶ双方向テレビ形式）等社会教育・教養番組が過半を占め、「テレビ町内会」、選挙開票速報、町政を考える番組なども人気があったとのことである。

（備考2）「自主放送」は、「ケーブルテレビ局が自社で編成する地域に密着した各種情報を自主放送（コミュニティチャンネル）とし、自社が運営するサービスの一環として放送し、一般に市販されている地上デジタル放送対応受信機でも視聴する番組のことを指す」とされている（日本ケーブルテレビ連盟2012）。「コミュニティチャンネル」の名称の由来や経緯は把握できなかった（ただ川島2008では、「自主放送のうちケーブルテレビ事業者自らが企画、取材、制作、編集、放送するものを自主制作番組／チャンネルと呼び、その番組内容には業務区域である地域に密着したものが多く、それゆえ、コミュニティ番組／チャンネルとも呼ばれ」とされている）。また公式の定義もされていないと思われる（なお船津2006参照）が、総務省等も含め「コミュニティチャンネル（自主放送）」として使用されている。なお、コミュニティチャンネルの中で自主制作番組だけでなく、購入番組や買い物番組を放送している局も多く、また行政情報、ライブ映像、天気予報、買い物番組を「コミュニティチャンネル」と別のチャンネルで放送している局もある。

（備考3）総務省2025によると自主放送の加入世帯数は約3,188万世帯（世帯普及率約52.0%）とされている。

このような状況において、本稿では、今後のコミュニティチャンネルの内容の充実の一助になることを期して、コミュニティチャンネルで放送されている番組について、どの程度の番組数があるのか、どのようなカテゴリーの番組が放送されているか、特色ある番組はどのようなものがあるか等について整理することとしたい。整理の方法としては、日本ケーブルテレビ連盟に加盟している（MSO、広域事業者を除いた）ケーブルテレビ局（オペレーター）330局のうちホームページが掲載されている310局^{注1}のHPからコミュニティチャンネルの番組表が確認できた175局の番組について集計・整理した^{注2}。

2. コミュニティチャンネルの番組数

(1) コミュニティチャンネルの放送枠数

上記175局のコミュニティチャンネルで放送されている番組の放送枠をすべて集計すると延べで約7,400の放送枠数が確認できた。

一日のコミュニティチャンネルの中で同じ番組が複数回放映されることも多いため、集計対象日の番組タイトル数でみると、延べで約2,900の番組数（タイトル）が確認できた。

結果、同じ番組が平均で2.6回放送されていることがわかる（中央値は2.4回、2回以下の局は56局（32%）、10回程度の局もあった）。

(2) コミュニティチャンネルの放送番組数

次に、（週内で同じ番組が別の曜日でも繰り返し放送されることも多いが）曜日で別の番組（タイトル）が放送されている場合もあり、番組表が週単位で掲載されている場合が多いことから、（集計対象日の含まれる週の）別の日の番組も加えて集計すると、全体で延べ3,075番組（タイトル）が確認できた^{注3・4}。

コミュニティチャンネルがあるケーブルテレビ局で平均で17.6番組（中央値は17.0）、最大は50以上であった（イベント紹介が多かった）。

3. コミュニティチャンネルの番組内容

(1) 番組内容のカテゴリー別での整理

コミュニティチャンネルには、様々な番組があり、基準を設け分類することも難しいが、コンテンツの全体的傾向を知るために、以下のカテゴリーを設け、番組を分類・整理した^{注5・6}。

カテゴリーを大きく分類すると、下記のように、地域に関する（地域特有の）情報と、地域に直接関係はない情報に分けられる。

i)（暮らしている地域のことを知るために有益な）地域に関する（地域特有の）情報

- ①行政情報（行政機関が発する情報）^{注7}
- ②時事・出来事情報（地域のニュース（文字ニュース、週間ニュースまとめも含む）、最近の話題、行事、イベント、スポーツ中継等の情報）^{注8}
- ③地域情報^{注9}（地域自体の特性・固有性・独自性に関連する情報：歴史・自然・文化・名所・グルメ・店舗等）^{注10}
- ④地域活動情報（地域において活動している主体に関する情報：地域活動、サークル活動、企業、学校生徒、有名人等）^{注11}
- ⑤リアルタイム情報（地域の時々刻々とした状況の情報：ライブカメラ情報、天気予報等）

⑥視聴者投稿・視聴者参加番組

ii)（暮らしている地域に関する情報ではないが）地域住民の暮らし等に役立つ情報

⑦暮らし・教養・娯楽等

（健康関係（体操等）、教養・娯楽・趣味等（旅、絶景、釣り、囲碁将棋、ペット等））^{注12}

⑧ショッピング番組

⑨ドラマ・アニメ・音楽等

iii) ⑩アーカイブス（リクエスト含む）

iv) ⑪その他（不明（内容不明等でカテゴリー分類困難）、番組案内、他の局制作番組、慶弔知らせ等）

上記2（2）の3,075番組（タイトル）をカテゴリー別に集計した結果は、以下のとおりである。

カテゴリー	番組数	割合(%)	
		※1	※2
①行政情報	159	5.2	6.0
②時事・出来事情報	553	18.0	20.9
③地域情報	357	11.6	13.5
④地域活動情報	197	6.4	7.4
⑤リアルタイム情報	102	3.3	3.9
⑥視聴者投稿・参加番組	34	1.1	1.3
⑦暮らし・教養・娯楽等	908	29.5	34.3
⑧ショッピング番組	180	5.9	6.8
⑨ドラマ・アニメ・音楽等	111	3.6	4.2
⑩アーカイブス	45	1.5	1.7
⑪その他	429	14.0	—
合計（全番組数）	3,075	—	—

※1 全番組数（3,075）に対する割合

※2 ⑩を除いた番組数（2,646）に対する割合

集計結果について若干のコメントをしたい^{注13}。

㊦ 上記 i の地域に関する情報が、（⑩を除いた）番組数の過半を占め（53%）、内訳としては、②時事・出来事情報が多く、③地域情報が続く。

②では、地域のニュースや、行事・イベントのお知らせ・放映番組が多い。

③では、地域の特色あるスポットを映像・インタビューで紹介するものや、地域の特色ある文化・技術・産業などを歴史も交えて紹介するような内容のものが多く、地域の方が地域について学んだり、外出するのに役立ち、地域への愛着等を生むのにも寄与していると考えられる。加えて、近年では、JCTAの全国コンテンツ流通システム「AJC-CMS」等により、コミュニティチャンネルの地域コンテンツ番組の流通（他のケーブルテレビ局で放映）も行われており、これら地域情報に関する番組が地域外へも情報発信されることにより、地域外の方が地域へ来訪する機会を生むなど、交流人口・関係人口の創出により、地方創生にも役立っていると考えられる^{注14}。

- ① ④地域活動情報や、⑥視聴者投稿・視聴者参加番組は、必ずしも多くはないが、ケーブルテレビの自主番組制作人員が必ずしも十分に確保できず、今後も厳しい状況が想定される中、住民参加・制作（パブリック・アクセス）の確保の観点も含め、積極的に取り入れていくことも有効ではないかと思われる。
- ㉔ カテゴリー別でみると、⑦暮らし・教養・娯楽等の番組の割合が一番多くなっている。この中には、様々な番組があるが、放送しているケーブルテレビ局の地域の情報でなく、他の地域に関する番組（全国の名所・観光地・祭り等の紹介番組等）であったり、地域と関係ない一般的な番組（タレントのグルメレポート等バラエティー番組等）など、制作会社や、他のケーブルテレビで制作し、流通している番組が多いと見受けられる。
- ㉕ ⑦には体操番組が多く含まれるが、朝昼夕夜など一日の中で定時に放送されることで、習慣で毎日行くと生活リズムが構築され、健康づくりによく、テレビチャンネルの定時性の特性が活かされた番組と考えられる。
- ㉖ ⑧⑨は視聴者の買い物・娯楽等の利便に役立っている点もあると思われるが、ケーブルテレビで自主制作しているものでないものが大半で、（ケーブルテレビの収入になっている面はあるが）必ずしもコミュニティチャンネルで多く放映する必要があるかは疑問な面もある。
- ㉗ ⑩のアーカイブ放送や、リクエストコーナーによる過去の優れた番組の再放送は、地域情報の再発見等の面でも有効と考えられる。
- ㉘ 個別のケーブルテレビ局でみると、当然に①～⑩の割合が異なるが、地方部の小規模と思われるケーブルテレビ局では、学校の運動会や文化祭、地域のお祭り等の行事・イベントを放映している割合が高いように見受けられる。
- ㉙ 県下の各ケーブルテレビ局が制作した番組を融通し、他の局でも放送する場合もみられる。また、県下のケーブルテレビ局で共同で番組を制作する場合もみられ、さらに県内ケーブルテレビ局が共同でコミュニティチャンネルを設け、共同番組を制作・放送している事例もみられる。

(2) 特色ある番組

以下、特色あると感じられた番組を記する。

- ・地域の素材・独自性を活かした番組
(例えば(手前味噌であるが)当ACCSで制作している「つくばde科学」は、研究機関・大学が集積している研究学園都市「つくば」の特性を活かし、地域の研究機関等の研究内容等を紹介する番組である。同様に地域の大学、博物館、文化施設と連携した教養番組もみられる。)
- ・地域が抱える課題を解決に導く番組
(地域で抱える課題を徹底的に調査して原因を追究し、他の地域での取り組みや好事例などを取材しながら、専門家とともに解決の糸口を掴むきっかけを探る番組)
- ・地元の企業や職人の技を紹介する番組
- ・市民・団体等インタビュー
- ・地域外で暮らす人の郷土への想いや、地域への移住者へのインタビュー
- ・幼稚園・小中学校の訪問紹介、中高校の部活、文化祭・体育祭等の行事紹介
- ・郷土学の番組、地域関連書籍による地域の文化・歴史等の紹介、地域にゆかりの人物の自叙伝
- ・地域で生まれた歌の紹介
- ・市民がディレクターとなり企画・撮影・取材・編集した番組、町長MC番組(レポ、体験等)
- ・電車の車窓風景、定点での鉄道風景、バス旅・観光情報(プロモーション映像、美術館等紹介)
- ・地域の農作物の生育状況や営農情報の紹介
- ・首長記者会見、議会で中継、選挙開票速報
- ・カラオケ大会、のど自慢
- ・朗読の会、創作童話、お坊さんの話
- ・スマホ教室、スマホ活用術
- ・育児番組(離乳食解説等)、料理教室
- ・税の知識、資産運用
- ・県の基幹病院の最新の取組、最新の治療方法や予防方法の紹介
- ・求人情報

4. まとめと若干のコメント

以上、本稿では、ケーブルテレビ局の番組表から、番組について集計・整理し、コミュニティチャンネルにおいて、どの程度の数の番組が放送されているか、どのようなカテゴリーの番組が放送されているか、特色ある番組はどのようなものがあるか等について整理した。以下、若干のコメントをしたい。

地域コミュニティの衰退や、地域の活力の減退が課題となっているなか、地域力を取り戻し、地方創生を進めるうえで、

- i) 地域の歴史・自然・文化・名所等、地域固有・独自の地域情報を放送・情報発信することで、地域の住民の方が地域の(隠れた)魅力を再発

見し、地域への愛着を深めたり、更に地域外の方にも地域への関心を持っていただく

- ii) 地域の人や組織の活動を紹介することで、地域の方が、地域には様々な人等がいるということ再認識いただき、住民間の相互理解や地域への関与を高めていただく

点でケーブルテレビは重要な役割を担うと考えられる^{注15}。

この点で、3で見たように、コミュニティチャンネルは、地域情報や地域活動情報に関する地域関連番組を制作・放送することで、一定の役割を果たしていると評価できるが、他方で、それら地域関連番組の割合が必ずしも高くなく、また、再放送で同じような番組を放送している状況もあり、地域関連番組の更なる充実を図っていくことが重要と考えられる。

他方で、テレビ離れ等、ケーブルテレビを取り巻く厳しい状況の下で、番組制作の人的・金銭的リソースも限りがある中では、より効率的で効果的な番組制作を進める必要がある。そのためには、視聴者投稿・参加番組の充実や、アーカイブによる過去の優れた番組の発掘・活用も有効と思われる。あわせて、ケーブルテレビ局間での番組共同制作や、番組の相互流通を更に進めていくことも重要と思われる。

地域と密接に結びつき、地域に貢献するという、コミュニティチャンネル（自主放送）草創期の地域への想いを再認識し、地域住民・団体・企業・自治体など地域の関係者との積極的な協働により、地域メディアとして地域密接・密着で身近で地域独自の情報を提供していくことが重要と考える。

※本稿の内容は、筆者個人の見解であり、筆者の属する組織としての見解ではないことを申し添える。

〈注〉

- 1 https://www.catv-jcta.jp/u/pdf/about/2469/op_memberlist_251001
- 2 2025年11月の番組表で集計対象日(主に2025年11月5日(水))の番組数を集計・整理した。集計作業の日程の都合で当該日としたもので、特定の日を意図したものではない。ただし、ケーブルテレビ局の番組表の公表の関係で集計作業の際に集計対象日の番組表が公表されていない場合も一部あり、その場合は10月等の番組で集計している。なお、ケーブルテレビ局で事業エリアの地区ごとに番組内容が異なる場合があるが一地区で集計し、また、県内ケーブル局共同チャンネルの番組は県内のケーブルテレビ局それぞれでは集計せず一つの局として集計している。
- 3 各ケーブルテレビ局で同じ番組を放送している場合もある(系列の局で融通、あるいは下記の全国流通番組の放映等)ので、この数の番組が制作されているわけではない。
- 4 一部の番組を見落としている可能性もあり、これより番組数が多い可能性もあるが、下記のカテゴリーでみる点では全体の傾向を把握することにはつながっていると考える。

- 5 各ケーブルテレビの放送番組自体を個別に視聴はできていないため(HPで番組の概要等の紹介がされている場合はその内容は確認した)、番組名等だけでは内容を正確に判断できない場合があること、カテゴリーへの当てはめも筆者の主観的判断が入っていること、また一部の番組表などを見落としている可能性もあることから、あまり厳密なものとなっているものではないが、学術論文でもなく、全体の傾向を把握することにはつながっていると考える。なお、番組内容が把握できず、カテゴリーへの当てはめができないものも多かったことから、下記①の不明としたものも多かった。なお、番組内容により複数のカテゴリーにあたると思われるものもあるが、より近いカテゴリーに分類・集計した。
- 6 カテゴリー設定の考え方は、上記のカテゴリー分けが困難な点も踏まえ、大まかなカテゴリーで分類することが適当と考え、そのカテゴリーでも大まかな傾向が把握され、各ケーブルテレビ局の今後の番組作成の参考になると考えられることから、このカテゴリーによる分類したところである。加えて、番組の制作方法(今後のケーブルテレビを取り巻く状況の下での制作人員の確保の厳しさ等)や、視聴者との協働等の観点も考慮しつつ、(必ずしもカバー率は高くない可能性も承知の上で) カテゴリーを設定した。なお榊原2005では、コミュニティチャンネル番組のジャンルに着目し、①タウン情報系、②レジャー系、③イベント系、④教養系、⑤健康づくり系、⑥ひとづくり(興し)系、⑦まちづくり(興し)系、⑧チャイルド系、⑨住民主導系、⑩インフォーマル系に分類している。
- 7 商工会議所等団体情報も含めた。
- 8 イベント告知だけでなく、運動会・音楽会等のイベント内容の放映も含めた(ただし下記注⑩参照)。
- 9 ①②④⑤⑥の他のカテゴリーの情報も地域に関する情報であり広い意味で地域情報といえるが、ここでは地域自体の特性・固有性・独自性に関する情報という狭義の意味で「地域情報」としてカテゴリーを設けた。なお川島2008 P62-67も参照。
- 10 お祭り、花火大会等の地域の独自の文化等に関する行事の番組は(②でなく)こちらに含めた。
- 11 イベント等の一時的なものは②に含めた。
- 12 ニュースでも全国ニュース、海外ニュース等地域に直接関係しないものはこちらに含めた。
- 13 カテゴリー別の番組の割合に関して、コミュニティチャンネル局の事業規模(売上、従業員数等)との関係については、コミュニティチャンネル局の売上、従業員数等が必ずしも公開されていないため、分析していない。
- 14 なお、⑦「暮らし・教養・娯楽等」の番組において地域外の祭りや絶景が紹介されることで、地域の方がそれら地域外の観光等に出かける機会にもなる面もある。
- 15 川島2008では地域メディアの機能として「地域情報の提供」「地域意識の醸成」を挙げている。

〈参考文献〉

- 川島安博(2008)『日本のケーブルテレビに求められる「地域メディア」機能の再検討』学文社
- 榊原浩一(2005)『市民のメディア コミCHANの正しい食べ方』サテマガ・ビー・アイ
- 総務省(2025)「ケーブルテレビの現状」
- 日本ケーブルテレビ連盟(2005)『日本のケーブルテレビ発展史』
- 日本ケーブルテレビ連盟(2012)「地上デジタル放送ネットワークでのCATV自主放送運用ガイドライン(第3.2版)」
- 平塚千尋(1993)「コミュニティメディアとしての可能性—CATV初期における地域自主放送の試み その1:郡上八幡テレビ—」放送教育開発センター研究紀要第9号
- 船津衛(2006)「コミュニティ・メディアの現状と課題」放送大学研究年報第24号